The way to the Future

［中長期基本計画］

公益財団法人 日本ソフトボール協会

ソフトボールの未来を見据えて

前文

　ソフトボール競技は、野球と共にかつては、いたるところでプレーを楽しむ姿が見え、学校の体育でも、地域大会、職場大会としても盛んに行われ、日本協会への登録チーム数も多く、競技者だけでなく、審判員、記録員の登録も多く広く愛好されていた。しかし、その数は激減し、学校の体育の中ではキャッチボールが出来ない子が増えている。そこで、（公益財団法人）日本ソフトボール協会は、２０１２年７月１０日、「ソフトボール活性化プロジェクト」を編成（内外 12 名のメンバー）、２０１３年２月３日、「２０２０年ありたい姿」のまとめを理事会に報告。

　それは、次なる世代に向けて「１０年」を一区切りとし、その現状を分析した上で次の１０年の目標を設定していくという中・長期計画であり、その目標に向け一つずつを積み重ねて「ソフトボールの未来」を創りたいと考えてのものである。

　そして、２０１９年に第１期で取り組んできた「２０２０年ありたい姿」を評価・検証し、次の１０年に向けたプロジェクトで検討を進め、２０２０年７月２６日の理事・評議員会において「２０３０年ありたい姿（第２期中期計画）」のまとめを報告。しかし、新型コロナウイルスの出現により、ほとんどの事業、大会が中止となってしまい大幅に計画の変更を余儀なくされる。困難に直面する中においても、２０２１年に延期された東京オリンピックで目標の金メダルを獲得することが出来たことは強化対策の実りとして嬉しいことであった。

　今、この間の環境の変化、意識の変化等による現状を把握、分析し、目標達成等の修正を行ない、競技性と大衆性の両方を見据えた強化と普及、支部協会の活性化、財政の安定化、組織においてもガバナンスコードに沿い構成基準を見直し、スポーツの本質である「楽しい時間を過ごす」ことに着眼し、色々な角度からソフトボールの原点をもう一度見つめ直し未来へ向けて健全な組織運営のもとに第２期中・長期計画を推し進めていく。

中・長期計画（第１期）の成果と評価

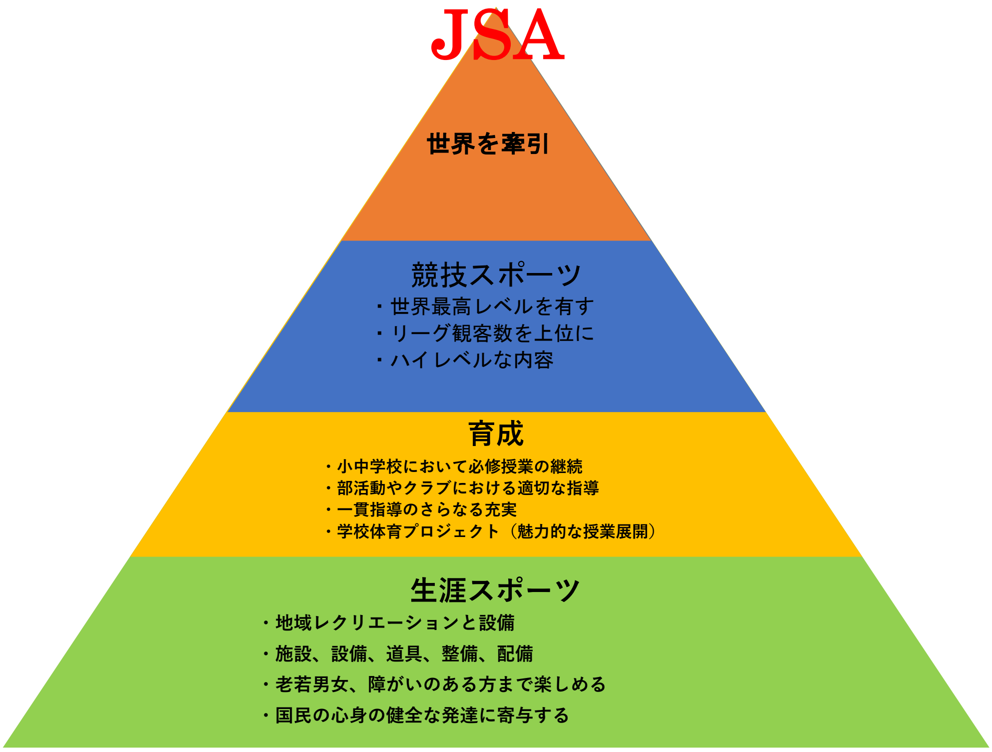
―２０１３年から２０２０年に向けて―

◆基本理念

- ソフトボールを、より魅力のある愛されるスポーツに育てます
- 地域に根付き、社会に貢献する生涯スポーツとして普及させます
- 世界の牽引を可能とする、日本の競技力・組織力を向上させます

（2013 年 2 月策定）

◆[2020 ありたい姿プロジェクト]とは



◆ありたい姿における四つの柱（Ⅰ～Ⅳ）の課題と検証

Ⅰ-生涯スポーツ

課題 → 対策 → 担当 → 検証

課題　環境が不十分

対策　施設・設備の増加、改善

担当　総務委員会

検証　高崎市市営ソフトボール場が建設

多目的施設に簡易スタンド設置及び得点板設置の工夫(見る人の視線で)

課題　老若男女・障がい者が楽しめる

対策　用具・ルールの工夫

担当　総務委員会

検証　各種大会を設け老若男女が楽しんでしる。しかし、

用具・ルールの工夫までには至らなかった。

障がい者(車椅子ソフト等)対応は、検討を進めていく。

課題　レクリエーションスポーツとして

対策　スローピッチソフトボールの普及

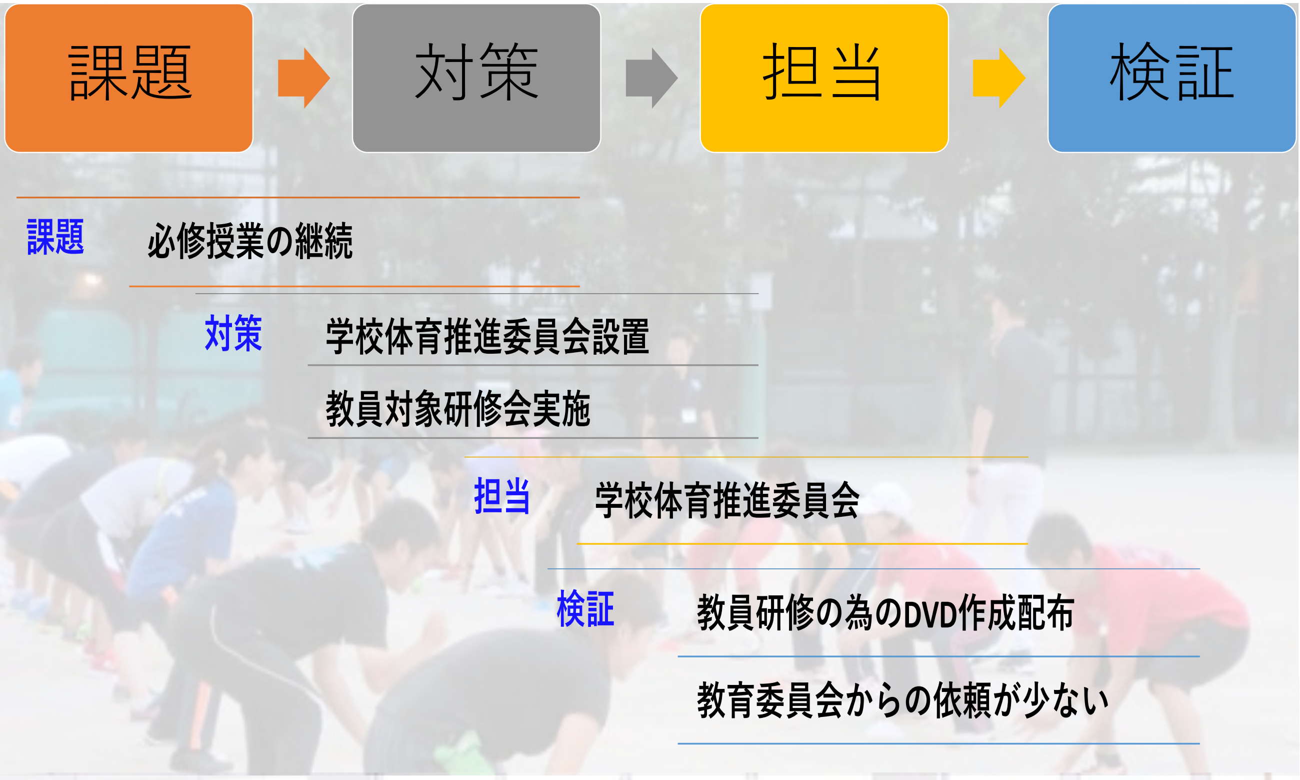
担当　総務委員会

検証　ルール・用具の検討を進めている。そして、

国民スポーツとしての地位復帰を目指していく。

Ⅱ-育成

課題 → 対策 → 担当 → 検証



課題　必修授業の継続

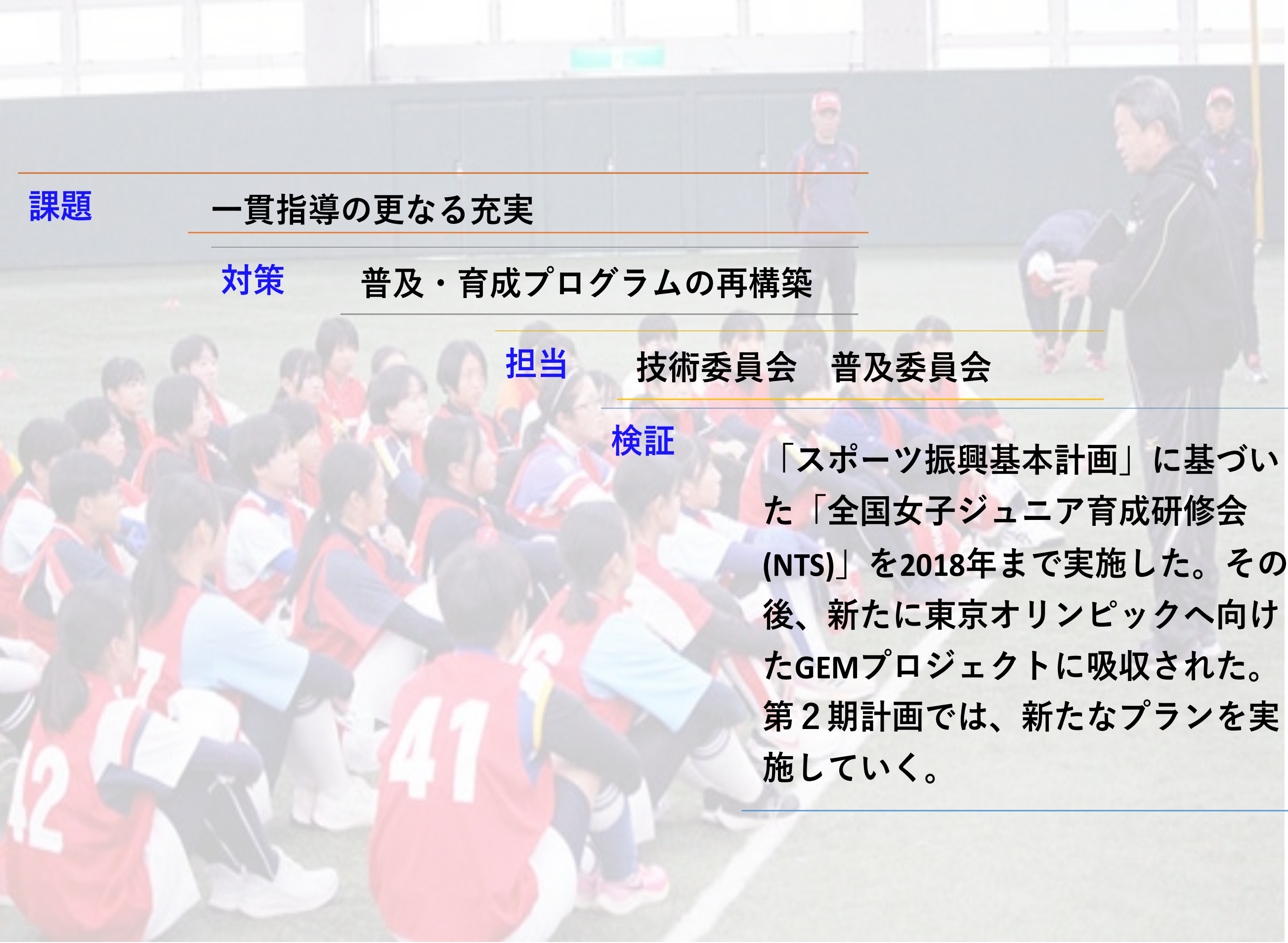
対策　学校体育推進委員会設置

教員対象研修会実施

担当　学校体育推進委員会

検証　教員研修の為のDVD作成配布

教育委員会からの依頼が少ない



課題　一貫指導の更なる充実

対策　普及・育成プログラムの再構築

担当　技術委員会　普及委員会

検証　「スポーツ振興基本計画」に基づいた「全国女子ジュニア育成研修会(NTS)」を2018年まで実施した。その後、新たに東京オリンピックへ向けたGEMプロジェクトに吸収された。第２期計画では、新たなプランを実施していく。

Ⅲ-競技スポーツ

課題 ➡ 対策 ➡ 担当 ➡ 検証

課題 世界最高レベルを有す

対策 強化計画の実施

担当 選手強化本部

検証 東京五輪金メダル獲得

男女ともに世界ランキング上位となる

課題 リーグの観客数増

対策 観客最優先のリーグ運営

担当 リーグ広報　リーグ委員会

検証

全チーム動画配信　イベント等で観客数増した。

女子リーグ法人化、JDリーグを発足

女子は新聞社との掲載契約を締結、ある程度の効果はあった。

男子は活性化プロジェクトを発足し、露出増に取り組んだが思った様な効果はなかった。

リーグ開催時にクリニックを開催し概ね良好であった。

今後地域貢献の為、OB・OGの活用を推進する。

Ⅳ-世界を牽引

世界及び競技スポーツの分野に関しては、有機的に事業やプロジェクトを実施でき成果も出ている。育成・生涯スポーツに関しては、未就学者、小中学生におけるプロジェクトは実施したものの、競技者数増加にはまだ繋がっていない。

「２０２０年ありたい姿」の検証を踏まえ、世界、競技スポーツは現存の国際委員会、強化本部が対応、育成、生涯スポーツについては、日本協会だけでできるものではなく、各都道府県協会と共に進むべく普及プロジェクト、支部活性化プロジェクトを立ち上げ対応する。リーグの発展においては２０２２年に「JD リーグ」を開幕、女子リーグ機構において進めていく。

中・長期計画（第２期）

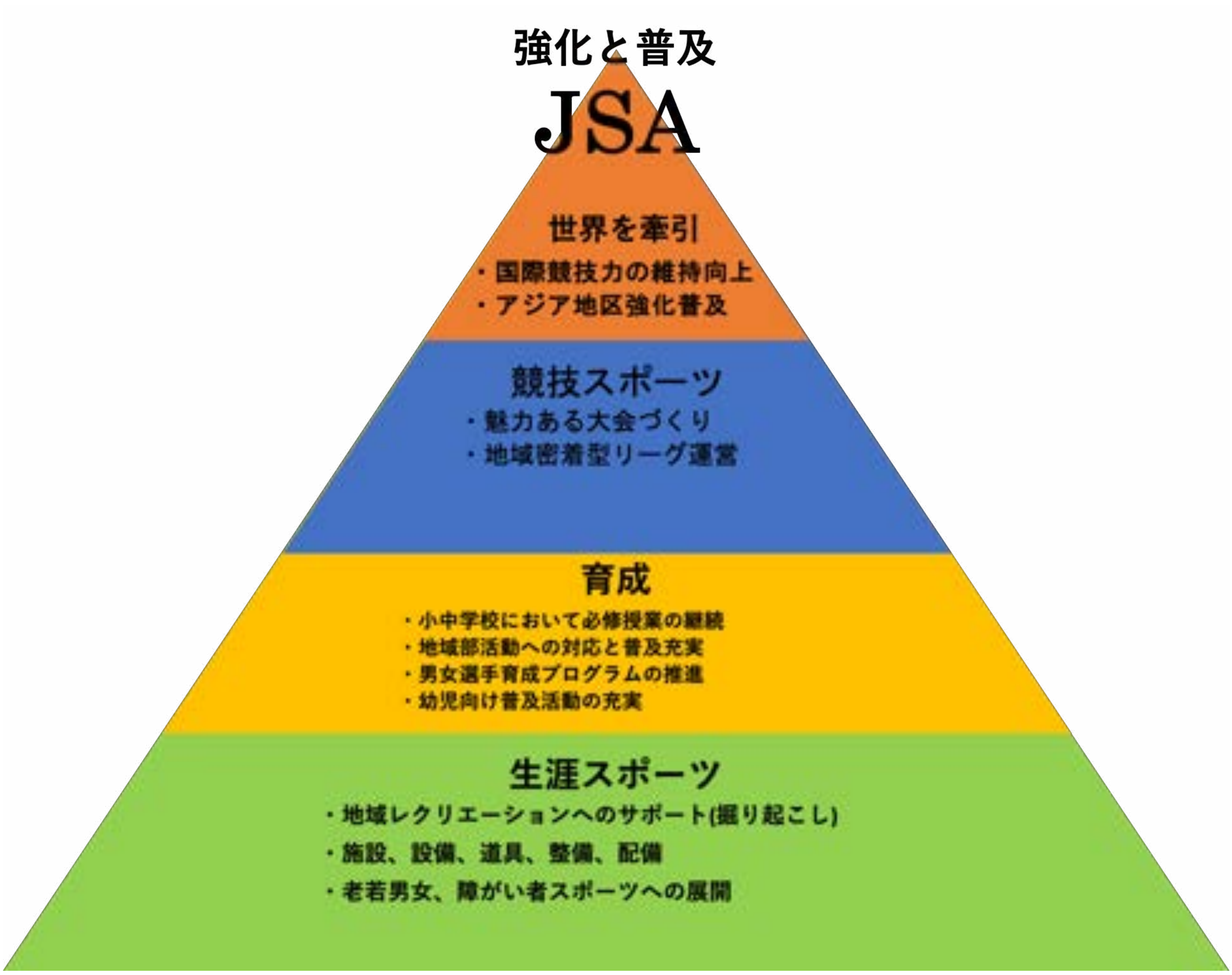
―２０２１年から２０３０年に向けて―

◆基本理念

- ソフトボールを、より魅力のある愛されるスポーツに育てます
- 地域に根付き、社会に貢献する生涯スポーツとして普及させます
- 世界の牽引を可能とする、日本の競技力・組織力を向上させます

（2013 年 2 月策定）

◆［2030 ありたい姿プロジェクト］とは



第 2 期スポーツ庁基本計画

1-スポーツで人生が変わる＝する・みる・ささえることでみんなが価値を享受できる

2-スポーツを生活の一部とすることで人生を楽しく健康に

3-スポーツで社会を変える＝共生社会や健康長寿社会の実現　経済、地域の活性化

4-スポーツで世界とつながる＝多様性を尊重する世界　持続可で逆境に強い世界　クリーンでフェアな世界

5-スポーツで未来を創る＝スポーツで人々がつながる国民運動を展開

6-参画人口を拡大し他分野との連携・協働を進め健康スポーツ社会を実現する

- 競技人口の維持拡大が2030年ありたい姿の中核課題（競技人口数がすべての土台）

- 日本人の人口減少率（年0.21％）ソフトボールの個人登録者数（小中高）の減少率（年3％）
- 中学男子10年間で48.3P減　中学女子37.6P減　高校男子32.9P減　高校女子25.9P減

- 競技人口維持増加を主軸とした道のり作り
- 日本協会・都道府県協会で競技人口維持増加を目的とした組織強化、組織運営改善施策を構築

最大の課題である競技人口の減少に歯止めをかけるための「する・みる・ささえる」の観点から 2030 年ありたい姿へ

	課題	2030ありたい姿
する	・いかに若年層の競技環境を整備するか ・いかに競技人口を増やすか	★トップチームが地元ジュニア育成プログラムを持つ ★地域に必ず小・中クラブチームがある ★競技人口の減少にストップがかかった
みる	・いかに面白い大会にするか ・いかに一般の集客を増やすか ・いかに男子競技の魅力を伝えるか ・いかにメディアに取り上げられるか	★観客が見て楽しめる大会づくりとなる ★大会PR、ファンサービスが整っている ★国際大会が行われている ★マスコミに結果、ニュースが取り上げられる
支える	・いかに競技運営の質を高めるか	★運営側で若手が活躍している

2030 年ありたい姿の各部門ロードマップ

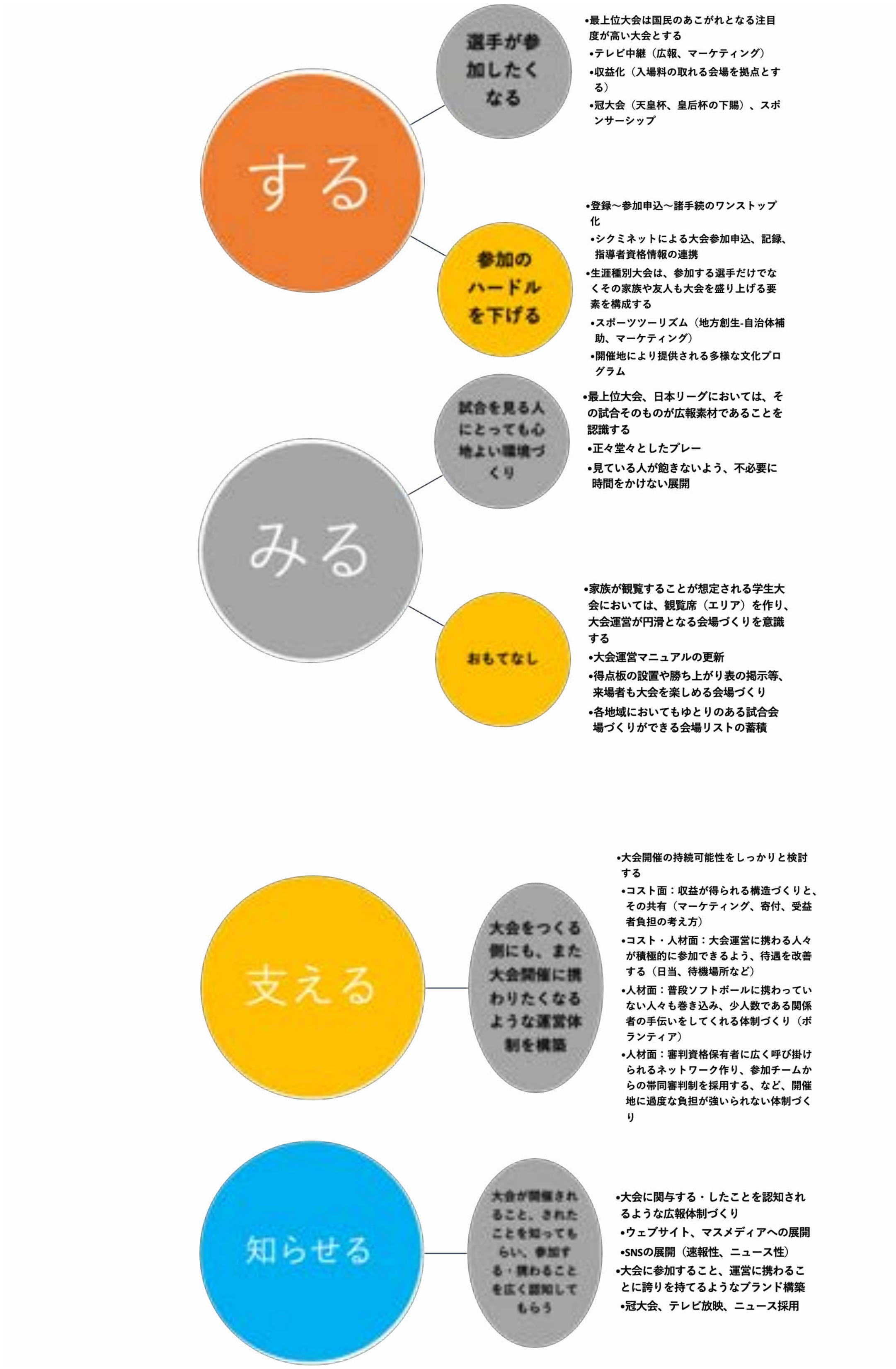
1-国際部

強化戦略	普及戦略	情報戦略
• 財源確保 • マーケティング拡大 • JOC派遣事業正式競技入	• 未開地域への積極的普及 • 世界中へ講師派遣	• 国際情報網の構築

2-選手強化

強化対策	指導者育成	情報戦略
• 世界ランキング維持 • 国際大会へ積極参加 • アンダカテゴリー育成	• LA五輪を見据えた育成 • 専任コーチの育成	• アメリカ対策

3-大会のあり方


する
選手が参加したくなる
•最上位大会は国民のあこがれとなる注目度が高い大会とする
•テレビ中継（広報、マーケティング）
•収益化（入場料の取れる会場を拠点とする）
•冠大会（天皇杯、皇后杯の下賜）、スポンサーシップ
参加のハードルを下げる
•登録～参加申込～諸手続のワンストップ化
•シクミネットによる大会参加申込、記録、指導者資格情報の連携
•生涯種別大会は、参加する選手だけでなくその家族や友人も大会を盛り上げる要素を構成する
•スポーツツーリズム（地方創生-自治体補助、マーケティング）
•開催地により提供される多様な文化プログラム
みる
試合を見る人にとっても心地よい環境づくり
•最上位大会、日本リーグにおいては、その試合そのものが広報素材であることを認識する
•正々堂々としたプレー
•見ている人が飽きないよう、不必要に時間をかけない展開
おもてなし
•家族が観覧することが想定される学生大会においては、観覧席（エリア）を作り、大会運営が円滑となる会場づくりを意識する
•大会運営マニュアルの更新
•得点板の設置や勝ち上がり表の掲示等、来場者も大会を楽しめる会場づくり
•各地域においてもゆとりのある試合会場づくりができる会場リストの蓄積
支える
大会をつくる側にも、また大会開催に携わりたくなるような運営体制を構築
•大会開催の持続可能性をしっかりと検討する
•コスト面：収益が得られる構造づくりと、その共有（マーケティング、寄付、受益者負担の考え方）
•コスト・人材面：大会運営に携わる人々が積極的に参加できるよう、待遇を改善する（日当、待機場所など）
•人材面：普段ソフトボールに携わっていない人々も巻き込み、少人数である関係者の手伝いをしてくれる体制づくり（ボランティア）
•人材面：審判資格保有者に広く呼び掛けられるネットワーク作り、参加チームからの帯同審判制を採用する、など、開催地に過度な負担が強いられない体制づくり
知らせる
大会が開催されること、されたことを知ってもらい、参加する・携わることを広く認知してもらう
•大会に関与する・したことを認知されるような広報体制づくり
•ウェブサイト、マスメディアへの展開
•SNSの展開（速報性、ニュース性）
•大会に参加すること、運営に携わることに誇りを持てるようなブランド構築
•冠大会、テレビ放映、ニュース採用

支部活性化の課題	自県の競技人口を再確認する（特に若年層の推移と課題を数字で把握）
	自県の強みを活かした、独自の普及ビジョンを描く（強みを明確化し、その際の活性化した姿を描く）
	独自の普及ビジョン実現のための課題を明確化する（機動力　資金力　競技環境　行政との
	多角的な交渉力、地域財界との交渉力）
	独自の普及ビジョンに達成に向けた「県版2030年への道のり戦略」を策定
	活動の透明性確保と社会的信頼基盤となる「一般社団法人化」はマスト
	2030年までには全都道府県協会を法人化

コア施策例	ASOBALLプロジェクトの積極展開と地域交流
	小学生クラブ起点での競技世代のつなぎ
	中学生の部活代替機能補完（クラブ　部活補助　独自のスクール事業）
	地域の社会人クラブ新設又は既存クラブ強化（国体起点）
	公営グラウンド、スポーツ施設等の活性化事業主導
	世代交流大会の新設

普及活動施策の用意と展開	離反防止策支援・クラブマネージメント講習会（設立 運営 指導者育成 選手リクルート等）
	部活支援プログラム開発と自治体提案パッケージづくり
	小中学生の競技者の親ターゲットの体験イベント、セミナー等新規競技者獲得支援
	小学生向け、体験スクールのパッケージの開発展開（2020年五輪後に一斉展開検討）
	ウインドミル投法をきっかけとした、ソフトボール体験プログラム開発及び同指導員資格制度立ち上げ（野球経験者等の大人から新たなブーム起こし）

4-全日本総合選手権大会見直し

魅力	広報	価値
• 大会のあり方 • 開催方法の見直し	• 協賛企業の開拓	• JSA最高峰の大会 • 天皇杯・皇后杯

5-大学ソフトボール活性化

課題	対策	具体策
• 大学界の活性化	• 魅力のあるカテゴリー • 集客・PR戦略 • 中長期的な強化育成	• 国公立大学大会の充実 • 連邦型大会設置 • 指導者・審判員等養成

大学ソフトボール活性化［目標]

【目標】

・セカンドキャリアを視野にいれた大学進学を促せるように、更なる大学ソフトボールの活性化
・アジア競技大会・オリンピック・W杯等の男女日本代表チームに大学出身者を少しでも多く輩出目標。
　※長期的な指導者育成の視点も含む
・連邦型の大会設置・幅広い視点での競技者の支援（国公立大学大会やインカレ以外の大会等検討）
・指導者・審判員育成
・国際交流事業（強化・普及の視点）
・UNIVASとの協力による視聴数増大（男女）
・男子：試合のスピードアップのための方策・環境整備・大学進学の競技継続増加
・女子：集客、観客増大・協賛募集・観せる演出の取り組み
　（競技魅力）

UNIVAS

6-リーグ活性化

リーグ
• イベント等開催
• プロジェクト推進
普及・地域貢献
• リーグ期間中の普及活動
• 現役選手の講師派遣
マーケティング
• スポンサー獲得

Roadmap
2030
男女でのオリンピック種目へ入るための取り組み(仮)
2029
男女でのオリンピック種目へ入るための取り組み(仮)
2028
男女でのオリンピック種目へ入るための取り組み(仮)
2027
クラブ普及活動　リーグ形態[１リーグ制→３リーグ制]
2026
トップリーグ連携機構への加入　男女リーグ活性化プロジェクト新規始動(案)
2025
リーグ組織改革(組織化)導入　加盟チーム増[17→19]　3会場制導入　全会場有料制
リーグ組織改革(マーケティング拡大)準備
2024
加盟条件緩和[クラブ・実業団ベスト4→8]　リーグ構造改革(組織化)準備
交流イベント実施　男子リーグ広報拡大
2023
リーグ開幕説イベント企画[U23W杯の為中止]　決勝T・リーグ運営システム実施
2022
登録費増額;45→70万円[運営費赤字削減の為]
2021
SNS等活用　動画配信システム導入　委託費;１大会万円[年間3大会実施]

7-普及プロジェクト

ASOBALL	生涯スポーツとしての位置付	ルールの検討	学校体育BB型事業
•47都道府県実施	•楽しめる大会 •用具の研究(安全・安心)	•簡素化	•47都道府県実施

8-中学生改革プロジェクト

必修授業の継続	選手育成プログラムの継続	地域クラブ化促進	全国大会あり方の検討	中体連の縮減
•学校体育推進委員会を設ける •教員対象研修会の実施	•育成普及事業の再構築（中学生男女） •選手育成　一貫指導システム普及	•部活動から地域のクラブへ	•縮減に向かう中体連大会の動向による影響を低減し、協会独自の中学生世代の考え方の指針策定	•U15部会の様なジュニア世代部会の創設をし、意志決定を担う。 •普及および協会のビジョン伝達

9-支部活性化プロジェクト

課題	対策	具体策
•プロジェクトの立ち上げ	•推進メンバーを選出 •現状分析と課題の抽出	•自治体ごとの参加機会拡大(大会新設・参加年齢) •既存大会の魅力強化と拡大 •自治体の健康増進施策への取組 •戦略に対する県協会の取組 •若年層の現状把握 •初期推進メンバー •三重 岡山 大分 •第２期メンバー •富山 大阪 高知 鹿児島
• 法人化の推奨	• 健全な活動を行う上で一般社団法人化	
•若年層競技人口の減少対策	•中学生対象普及システムの構築 •各県に委員を任命 •部活動改革プロジェクト •ASOBALLプロジェクトの継続	•外部指導者の養成（行政との連携） •楽しむソフトボールの導入 •スポ少との連携

・現状分析 ・課題抽出 ・仮説設定 ・組織体制確認・確認	・３ヵ年計画着手 ・20年度実行プラン策定 ・実行体制の整備 ・次年度予算案の策定 ・組織体制の確定 ・定款制作	・20年度施策の実行 ・21年度実行プラン策定 ・次年度予算確定 ・法人登記完了(2021.3月)

公益財団法人 日本ソフトボール協会

10-審判委員会

審判員育成	審判員育成	審判員育成
• 技術の向上	• 組織拡大・強化	• 資質向上

※重点目標　審判組織の拡大・強化

- 若年層への審判員資格取得の働きかけ（中、高、大学）認定講習会の開催（毎年）
- 中、高、大学審判員の登録手続き、審判服、装備の簡素化
- 帯同審判員制の導入

11-記録委員会

記録員育成[初級]	記録員育成[上級]	記録員育成[全般]	国際記録への対応	集計システム改修	記録の保管
• 認定会web化を模索	• 取得推進教材の開発	• YouTubeやオンデマンドによる公式記録の紹介	• WBSC対応記録員育成	• 現状;windmill11はローカル利用 • 今後;クラウド利用[タブレット・スマホ]	• Drop BOXによる管理・情報共有

12-組織の改革

スポーツガバナンスコード遵守	組織改革	法人化の推奨
•役員の多様化実現	•役員選出基準の整備 •IF人材の養成	•支部の法人化推奨

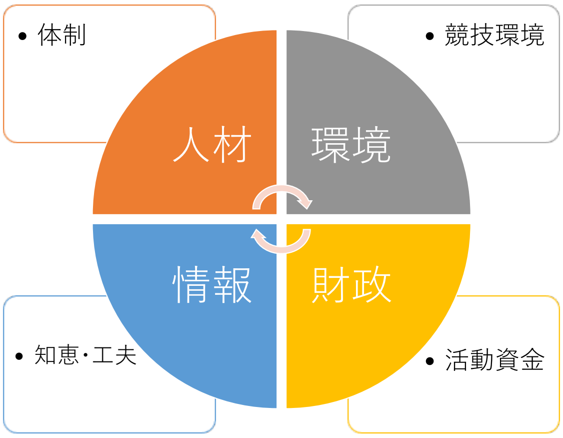
● 日本ソフトボール協会　加盟団体組織

現状では、理事25名中、外部理事3名（12%）、理事25名中、女性理事6名（24%）という役員構成になっておりますが、「ガバナンスコード」を遵守した役員構成とするために、組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ることを目標に掲げ、

❶外部理事の目標割合（25%以上）
❷女性理事の目標割合（40%以上）

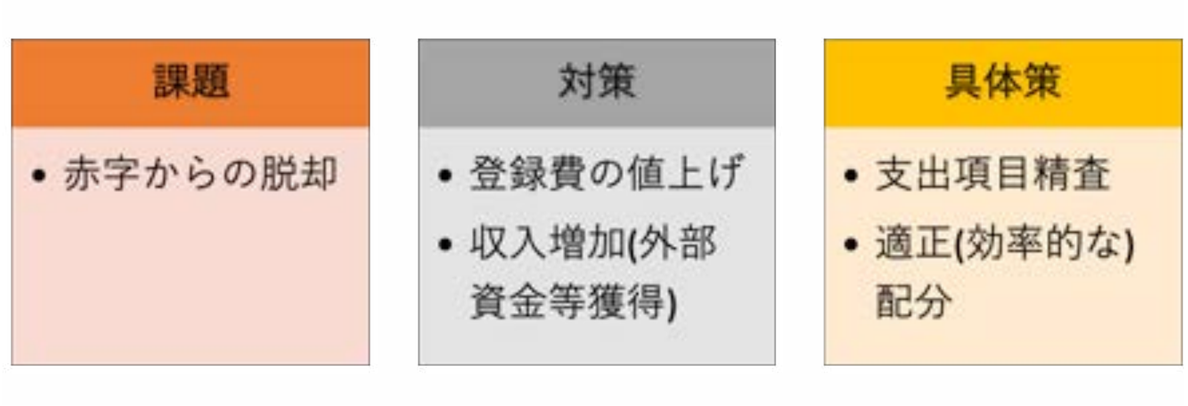
上記で定めた目標割合を達成するための方策として、「役員等選任規程」を改定し、外部理事及び女性理事の選任に関する定めを新設し（令和5年6月開催の理事会を予定）、上記目標割合を達成すべく、大幅な見直しと大胆な改革を断行します。
なお、現状の役員選任規程においても、会長が学識経験者を 最大10名推薦することができることになっており、この推薦枠を外部かつ / または女性で占めることにより、上記目標割合を達成することが可能になります。
また、現行の副会長は会長に選任され、現在副会長は3人とも女性であり（1名は外部理事）、この推薦枠を外部かつ / または女性で占めさせることは十分可能なのです。
その候補者としては、中期基本計画の目的達成に必要な人材、実務力の約束された人材の登用が必要であり、たとえば女性アスリートや他競技団体出身者（なお、現状1名の理事が他競技団体出身）であり、さらに学識経験者（法務や会計）とすることも予定しています。
時代に即し、時代の求めに応じた組織づくり。（公財）日本ソフトボール協会は、そんな組織であるために、各都道府県支部協会とともに「組織改革」に取り組み、「変わる」ことを恐れることなく、「変えていく」「変わっていく」組織でありたいと思っています。

ガバナンスの確保という観点で、スポーツ競技団体としての健全化を図り、
組織運営上の責任を明確にした活動へと進化、さらに・・・



・ガバナンスコードの遵守
・コンプライアンスの強化
・組織の透明性・健全化

13-安定した財政基盤


課題
• 赤字からの脱却
対策
• 登録費の値上げ
• 収入増加(外部資金等獲得)
具体策
• 支出項目精査
• 適正(効率的な)配分

Roadmap
2030
2040に向けた中長期予算計画(3)のスタート
2029
中長期予算計画検討(2)-具体案の提示
2028
LA28オリンピック　中長期予算計画検討(1)
2027
登録費等の検討(2)　支出項目の精査(自己資金比率の将来展望)
2026
登録費等の検討(1)（見直し-再度検討）　マーケティングの拡大
2025
JOC強化助成　協賛企業の開拓　資金運用の再検討
2024
赤字解消(収支相称)　外部資金等の獲得　クラウドファンディング実施
2023
登録費値上げ実行　支出項目の精査　クラウドファンディング検討
2022
登録費値上げの検討 (2)-内容の精査
2021
登録費値上げの検討(1) -将来展望からの値上げ率を検討